

令和3年度  
事業計画書

京都府中小企業技術センター

# 目 次

当センターの概要	1
1 組織図	1
2 人員構成	1
令和3年度事業計画	2
1 中期事業計画の重点と取り組み	3
2 技術支援	3
3 人材育成	3
4 研究開発	3
5 関係機関との連携	4
6 情報発信	4
7 地域産業の活性化	4
8 技術支援体制の充実・強化	4
・令和3年度研究会、セミナー・講習会一覧	5
・令和3年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール	8
・令和3年度所内研究、共同研究	9
・重点技術課題	11
(参考) 沿革、所在地及び施設等の概要	13

## 中小企業技術センター憲章

平成24年3月策定

### 基本理念

私たちは、京都府産業を支える中小企業の技術力向上を支援し、企業活動と地域経済の発展に貢献します。

### 基本方針

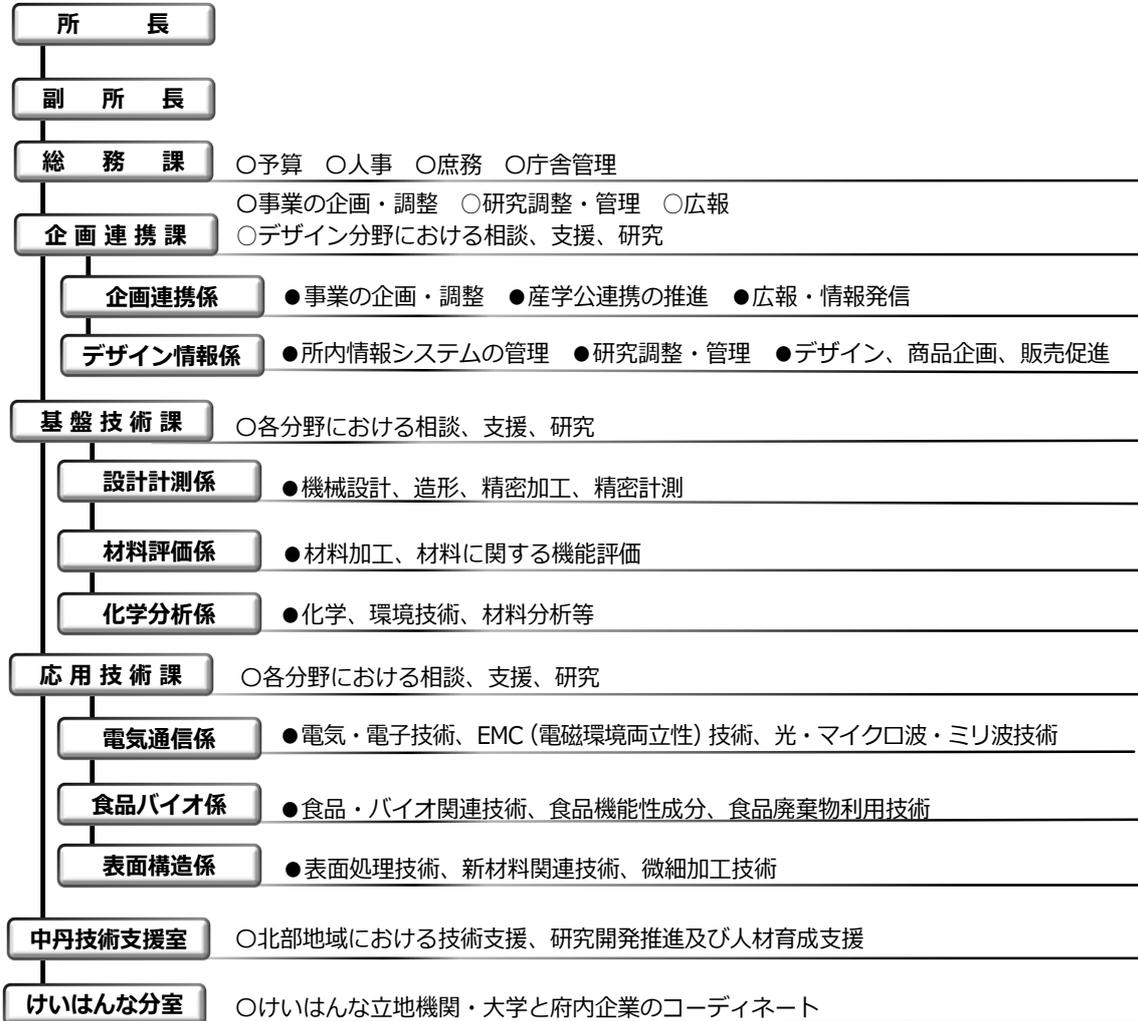
- 1 府内中小企業の皆様の期待に応えられる技術的な価値とサービスの提供をめざします。
- 2 府内中小企業の皆様から必要とされ、気軽にご利用いただけるセンターをめざします。
- 3 産業支援機関や大学など多くのパートナーと連携・協働し、府内中小企業を幅広く応援します。
- 4 サービスの質と量の向上を図り、府内中小企業のイノベーション（技術革新）と持続的発展に貢献することをめざします。

### 行動指針

- 1 お客様本位  
常に当センターを利用されるお客様の立場に立って考え、行動します。
- 2 現場視点  
常にお客様との対話を大切に、現地現場の視点から考え、行動します。
- 3 自己革新  
常にネットワークを拡げ、産業技術の動向に注目し、自己研鑽を図りながら、自己革新に努めます。
- 4 社会的責任  
常に技術支援の社会的責任を自覚し、高い倫理観をもって行動します。

# 当センターの概要

## 1 組織図



## 2 人員構成

	人 数	人 員 内 容		
		事 務	技 術	技能労務
所 長	1		1	
副 所 長	1	1		
総 務 課	6	5		1
企画連携課	9	3	6	
基盤技術課	9		9	
応用技術課	12		12	
中丹技術支援室	4(1)	(1)	4	
けいはんな分室	1	1		
計	43(1)	10(1)	32	1

(令和3年4月1日現在)

注：( ) は市町村実務研修生で外数。会計年度任用職員を除く。

# 令和3年度事業計画

新型コロナウイルスは地球規模で社会や経済に衝撃を与え、デジタル化に向けた動きの加速などによって、産業構造に大きな変化が生じています。こうした先行きが見通しにくく厳しい状況にあっても、京都府内の中小企業の皆様が技術向上に取り組まれ、また社会変革を捉えた新製品開発を進められる中、当センターでは技術支援、人材育成、研究開発、情報発信を柱に様々な企業支援を行っているところです。

令和3年度においては、京都府産業を支える中小企業の皆様の技術力向上を支援するため、当センター憲章をよりどころとして第4期中期事業計画を推進し、以下の3項目を重点目標としながら様々な取り組みを行います。

## 1. 職員力の向上

「頼られるセンター」であるための至上命題。技術継承・資質向上、研究活動の促進、課や係の枠を超えた企業支援の強化などを含めた総合的な職員力を向上させます。

## 2. 現場主義の徹底

企業や業界のニーズに対応するために不可欠で、職員力の向上にもつながる重要な命題。企業訪問の促進、業界団体や関係機関等との連携強化など、現場主義を徹底します。

## 3. 即応性の強化

社会情勢や環境の変化、災害等の突発的な課題に対応するために必要な命題。状況に即して迅速かつ柔軟に対応できる組織となるため、即応性を強化します。

## 令和3年度数値目標

	項 目	目 標 値
技術支援	技術相談・指導件数	2,500件
	機器貸付件数	3,200件
	依頼試験(種目)件数	1,500件
	企業訪問件数	500社
人材育成	研究会・セミナー開催回数	210回
	研究会・セミナー参加人数	5,500人
研究開発	研究調査(所内・共同・受託)件数	15件
情報発信	ホームページ閲覧件数	320,000PV <sup>(注)</sup>

(注) PV：ページビュー

## 1 中期事業計画の重点と取り組み

第4期中期事業計画において掲げた重点目標を達成するために取り組みます。

### 重点目標

- ① 職員力の向上  
「頼られるセンター」であるための至上命題。技術継承・資質向上、研究活動の推進、課や係の枠を超えた企業支援の強化などを含めた総合的な職員力を向上させます。
- ② 現場主義の徹底  
企業や業界のニーズに対応するために不可欠で、職員力の向上にもつながる重要な命題。企業訪問の促進、業界団体や関係機関等との連携強化など、現場主義を徹底します。
- ③ 即応性の強化  
社会情勢や環境の変化、災害等の突発的な課題に対応するために必要な命題。状況に即して迅速かつ柔軟に対応できる組織となるため、即応性を強化します。

### 取り組みのコンセプト

「待ちの組織から導ける組織へ ～企業ニーズに即したソリューションを提供します～」

### 取り組みの内容

企業や業界の直面する技術課題やセンターに求められているものを調査等により把握し、どのような解決策を提供できるかを軸に分析を行い、導かれた解決策を事業立案・推進を経て、業務へ反映させることにより、企業や業界への支援を行う業務サイクルを確立させます。

また、「課題発見・分析、事業立案・推進」のサイクルを職員の実践を通して定着、向上させることによって、突発的な課題に対しても迅速かつ柔軟に対応できる組織としての即応性を強化します。

## 2 技術支援

中小企業が抱える技術上の課題解決や技術水準の向上、新製品や新技術の開発促進などを支援します。

- ・技術相談
- ・依頼試験
- ・機器貸付
- ・企業訪問による現地現場対応
- ・企業への助成、表彰等に係る技術審査
- ・府施策と連携した技術的対応
- ・地域技術相談会の開催

## 3 人材育成

基盤技術の強化や技術者の育成、新事業展開の準備など、これからのものづくりに必要な幅広い分野のスキル向上のための研究会やセミナー開催等により、中小企業の人材育成を支援します。

- ・研究会、セミナー・講習会の開催
  - ☛ 令和3年度研究会、セミナー・講習会一覧（p5）
  - ☛ 令和3年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール（p8）
- ・研究生・実習生の受入
- ・中小企業等への啓発

## 4 研究開発

地域産業や中小企業が直面する技術課題の解決を第一の目標として、通常の技術相談や依頼試験、機器貸付では解決できないテーマや今後必要と見込まれるテーマ等について、所内研究、共同研究及び受託研究として取り組み、中小企業の研究開発を支援します。

- ・ 所内研究、共同研究  令和3年度所内研究・共同研究（p9）
- ・ 受託研究
- ・ 委託研究
- ・ 研究課題評価
- ・ 知的財産の活用
- ・ 企業との協働による具体的な技術開発の推進

## 5 関係機関との連携

企業支援の充実を図るため、関係機関等との連携を進めます。また、中小企業が抱える技術課題に対するニーズと大学が保有する技術シーズ、その両方からのアプローチで産学公の連携強化を図り、「大学のまち京都」の資源を生かしたネットワークづくりを支援します。

- ・ 広域での公設試験研究機関の連携
- ・ 産業支援機関との連携
- ・ 大学との連携
- ・ 業界団体等との連携

## 6 情報発信

当センターにおける広報をお客様との対話の出発点として基本的な考え方などを定めた「京都府中小企業技術センター広報のありたい姿」の実現をめざし、中小企業等に役立つ情報を迅速に提供し、当センターへの理解の向上と活用の促進を図ります。

- ・ 中小企業への情報提供と府民への広報
- ・ 施設の公開

## 7 地域産業の活性化

中丹地域の「中丹技術支援室」（綾部市）、「けいはんな分室」（木津川市・精華町）を拠点として、広域振興局や地域の産業支援機関等と連携し、地域特性に応じた支援を実施し、地域産業の活性化を図ります。

- ・ 北部地域におけるものづくり産業の振興
- ・ けいはんな地域における大学・研究機関と企業との連携推進

## 8 技術支援体制の充実・強化

職員の資質向上や技術継承を図る力を「職員力」と整理してまとめた「研修体系」に基づき、中小企業の期待に応えられる技術・知識、評価・提案力、研究開発力や他機関等とのコーディネート力の向上をめざします。その他、技術支援体制の充実と強化に努めます。

- ・ 技術職員の資質向上
- ・ 機器利用者への支援体制強化
- ・ 知的財産の管理
- ・ 機器の整備
- ・ 業務運営に係る基盤的事項

## 令和3年度研究会、セミナー・講習会一覧

### 研究会

	名 称	内 容	担当課・係
1	新工芸研究会	京都の文化と工芸の歴史的経緯を踏まえながら、現代の新たな技術、素材を取り入れ、伝統工芸を横断的に結んだ新たな京都工芸の創造につなげるため、調査研究・試作開発研究・需要開拓研究・その他必要な事業を行います。	企画連携課 デザイン情報係
2	機械設計・計測技術研究会	座学や演習、各種測定機を用いた実習を通して、機械設計・製図に必要な技術知識を習得し、さらに機械部品等の形状評価を行う実際の計測技術、電気基礎技術まで理解を深めることにより、設計技術力の高い人材の育成・交流を図ります。	基盤技術課 設計計測係 応用技術課 電気通信係
3	ものづくり分析評価技術研究会	現場で活躍する分光分析に関する系統かつ高度な知識とノウハウを兼ね備えた“ものづくり技術人材の育成”を支援し、ものづくり企業の技術力の向上と製品開発の後押しを図ります。	基盤技術課 材料評価係 応用技術課 表面構造係
4	京都光技術研究会	幅広い光関連技術分野毎の業界の動向・ニーズについて情報交換を行い、企業間連携の促進、課題に応じた共同研究の立ち上げ等のマッチングを支援します。	応用技術課 電気通信係
5	京都実装技術研究会	本研究会は、昭和62年に発足し、電子機器の生産に深く関わる接合・実装技術を中心に、生産現場の高度化のために必要な課題や各社が抱えている共通の課題の解決を目的とした、セミナーやワーキンググループ活動を行っています。	
6	表面処理技術研究会	京都府鍍金工業組合青年部と共催し、若手技術者、経営者の技術力向上のため、品質管理、新規市場の開拓について研究紹介や技術講習会を開催します。	応用技術課 表面構造係
7	デジタルマニファクチャリング研究会	開発プロセス(設計-試作-評価)でのCAEの活用を体感できる研究会活動を通して、中小企業のものづくり現場におけるフロントローディングを後押しします。	中丹技術支援室
8	製品開発企画研究会	中丹地域を中心としたものづくり企業の製品開発力を高め、経営資源を強化するために、自社の強みやスキルを活かし、地域産業の育成に貢献できる新製品の開発に必要な基礎知識や開発の進め方を実践的に学びます。	

### セミナー・講習会

	名 称	内 容	担当課・係
1	企業情報化支援セミナー	中小企業の情報化を支援するために、関連団体と連携して開催する、情報システムを活用した業務効率化等のための最新技術や動向に関するセミナーです。	企画連携課
2	京都グッドデザイン戦略支援セミナー	デザインの活用を考えているが心配や不安のある経営者の方々を主な対象に、中小企業のデザイン導入事例等を紹介しながら独自の企業価値を高める「経営者にしかできないデザイン」を考えていただくセミナーです。	デザイン情報係

	名 称	内 容	担当課・係
3	映像制作技術講習会	仕事の中で映像を利用した情報発信の機会が増えています。この講習会では初心者が失敗しがちな注意点をはじめ、本格的な撮影テクニック、機材選びから編集ノウハウまで実習を交えながら「映像技術の基礎」を学びます。	企画連携課 デザイン情報係
4	3D 技術活用セミナー	三次元 CAD、3Dプリンタ、3Dスキャナなど3D技術とその周辺技術の最新動向を紹介し、ものづくり企業の技術と製品開発力の向上、人材育成を支援するセミナーです。	基盤技術課 設計計測係
5	ものづくり先端技術セミナー	ものづくり技術開発の高度化の促進を目的にした、新機能材料、表面処理技術、精密加工技術、計測評価技術等の先端的技術情報に関するセミナーです。	基盤技術課 材料評価係
6	化学技術セミナー	新しい機能材料、加工技術、分析技術や国内外の化学物質規制などの情報を提供。また、RoHS 規則等の国際的化学品規制や国内の環境関連法令への対応を支援します。	基盤技術課 化学分析係
7	<b>新規</b> 電磁波技術セミナー	5G通信などのマイクロ波・ミリ波や電磁ノイズ対策(EMC)など、電磁波に関する様々な技術に関するセミナーです。これらの技術を用いた製品や技術開発をされている方、これから取り組もうとされている方を主な対象に開催します。	
8	光ものづくりセミナー	光関連技術分野の製品開発を行っている企業や、これから新規分野に進出を図りたいと考えている企業を対象に、光関連技術のトレンドや話題の提供を行うセミナーです。	応用技術課 電気通信係
9	実装技術スキルアップセミナー	電子部品等の実装において、各社の課題となっている事象の解決を目的に、現場の実情に応じた実習をメインにしたセミナーです。	
10	食品・バイオ技術セミナー	食品・バイオ関連技術分野の製品開発・製造・販売を行っている企業を対象に、「新しい食品・バイオ技術」、「食品市場動向から見る技術開発の方向性」等の新しい技術情報を提供します。	応用技術課 食品バイオ係
11	<b>新規</b> 表面技術セミナー	表面処理技術や評価技術、話題となっている製品、材料、加工技術等に関する幅広い情報の提供や大学等の研究シーズの発信を行うとともに、企業連携につながる研究テーマの発掘を目的としたセミナーです。	応用技術課 表面構造係
12	IoT 実習セミナー	インダストリー4.0 に向けた取り組みは中小企業にも不可欠となります。参加者各自が PC とマイコンを使って、試作ボード上で電子部品をコントロールするために必要な基礎知識、プログラミングを学ぶ、実習を中心としたセミナーです。	
13	機器操作・活用セミナー	中小企業の技術者自らが当センター中丹技術支援室の機器類を操作、活用するとともに、より多くの評価を行い、生産現場での問題解決の幅を広げることができるようにする実習形式のセミナーです。	
14	工業技術研修	基礎技術力を高めて地域の若手技術者の養成を図るため、当技術センター中丹技術支援室の機器類を実際に操作して実施する研修。機械科コースと電気科コースがあります。綾部工業研修所(事務局:綾部商工会議所)と共催。	中丹技術支援室
15	新分野進出支援講座	中小企業の新分野への進出や展開を支援する講座。エネルギー、環境、健康、福祉などの分野を中心に、最新情報、取り組み事例、大学のシーズの紹介等を行います。	
16	品質管理(QC)講座	ものづくりの現場における生産管理力の向上と、製品の信頼性向上のために重要な品質管理の知識を習得する講座です。	

	名 称	内 容	担当課・係
17	新規 産業人材育成基礎講座	中丹地域に立地する企業の技術者を対象にした、基礎的な知識を体系的に学べる講座。化学・製薬プラントの管理・従事者向けの工業化学基礎コースと、金属加工の管理・従事者向けの金属マテリアル基礎コースを開設します。	中丹技術支援室
18	京都大学宇治キャンパス産学交流会	京都大学宇治キャンパスにある4研究所(化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所)との産学交流会です。	けいはんな分室
19	けいはんな産学交流会	(公財)京都産業21との共催により、学研地域に立地する大学、研究機関、企業との産学交流会を開催します。	

# 令和3年度研究会、セミナー・講習会等開催スケジュール

(4月1日現在)  
月の数字は開催回数

番号	名称	回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	担当	
研究会	1 新工芸研究会	12回	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	本所 企画 連携課	
	2 機械設計・計測技術研究会	6回			1	1		1	1	1	1					本所 基盤 技術課
	3 ものづくり分析評価技術研究会	3回							1	1	1					
	4 京都光技術研究会	8回	1	1		1	1		1	1		1	1		本所 応用 技術課	
	5 京都実装技術研究会	6回		1	1	1		1		1				1		
	6 表面処理技術研究会	2回				1			1							
	7 デジタルマニファクチャリング研究会	10回		1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	中丹技術 支援室	
	8 製品開発企画研究会	2回										1	1			
セミナー・講習会	1 企業情報化支援セミナー	3回			1				1			1			本所 企画 連携課	
	2 京都グッドデザイン戦略支援セミナー	3回	1					1					1			
	3 映像制作技術講習会	6回		1	1	1			1	1				1	本所 基盤 技術課	
	4 3D技術活用セミナー	3回				1			1				1			
	5 ものづくり先端技術セミナー	3回					1		1			1				
	6 化学技術セミナー	2回				1				1					本所 応用 技術課	
	7 電磁波技術セミナー	6回		1	1			1	1		1		1			
	8 光ものづくりセミナー	2回			1						1					
	9 実装技術スキルアップセミナー	1回									1				中丹技術 支援室	
	10 食品・バイオ技術セミナー	2回						1				1				
	11 表面技術セミナー	2回							1					1		
	12 IoT実習セミナー	12回			2	3	1		2	2	2					
	13 機器操作・活用セミナー	5回			1	1		1	1	1						
	14 工業技術研修	70回	機械科コース:35回、電気科コース:35回													
	15 新分野進出支援講座	1回											1			
	16 品質管理(QC)講座	9回			2	4	3									
	17 産業人材育成基礎講座	25回	工業化学分野基礎コース:12回、金属マテリアル分野基礎コース:13回													
	18 京都大学宇治キャンパス産学交流会	4回			1				1			1		1		けいはんな 分室
	19 けいはんな産学交流会	1回							1							
研究成果発表会	1回						1								本所 企画連携課	

## 令和3年度所内研究、共同研究

京都府総合計画及び商工労働観光部重点目標を踏まえて定めた「重点技術課題」(p11)によることを基本とするとともに、以下のとおりとします。研究の実施に当たっては積極的に競争的外部資金の獲得に努めます。

### 研究課題設定の視点

- ・ 企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題
- ・ 依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発

### 研究結果の普及・活用についての視点

- ・ 現況調査では課題を把握・予見すること
- ・ 技術の改善・効率化に役立てること
- ・ 技術の探求や知見の蓄積を行うこと

### 職員による研究調査

	研究テーマ	概要	担当課・係
1	純マグネシウムのレーザー溶接条件の検討	純マグネシウムは、その物性からレーザー溶接可能となる条件範囲が限定的であり、条件を絞り込むことが難しい。本研究では、純マグネシウム線材でレーザー溶接条件を絞り込むことが可能か検討し、溶接後の試料について、物性の評価を行う。	企画連携課 デザイン情報係
2	CAEを用いた異方性材料の強度解析手法の検討	3Dプリンタ造形物について、CAEでの強度解析と万能材料試験機での強度試験を行い、3Dプリンタの造形方向によって発生する異方性が強度に与える影響を解析するための手法を検討する。	基盤技術課 設計計測係
3	界面散乱を利用したテラヘルツ帯における波長選択型透過構造体の検討	マトリクス中に種々の中空ビーズを配置した構造体を作製し、テラヘルツ波伝播時のマトリクス/ビーズ界面での散乱を利用することで波長選択型の透過構造体として利用しうるかについて検討する。	基盤技術課 材料評価係
4	液中パルスプラズマを用いた難分解性有機フッ素化合物の処理に関する研究	産業活動に伴う排水に含まれる難分解性有機フッ素化合物は環境中で分解されにくく、高い蓄積性を有するため分解処理が求められている。本研究では液中プラズマを用いて効率的な処理に向けた操作パラメータの検討を行う。	基盤技術課 化学分析係
5	顔認証システムにおける多要素認証の可能性の検討について	現在、スマートフォンなどでも実装されつつある「顔認証」であるが、例えば、コロナ禍によるマスク着用など顔を認識できない状況や、双子の誤認識問題など認識確度の問題やデータベース上に登録のない人間の認証の問題など、「顔認証」だけでは対応できない場面が存在する。本研究では、このような顔認証の欠点・弱点を補完する認証方式(多要素認証方式)の可能性について検討を行う。	応用技術課 電気通信係
6	フリースペース法測定における試験装置による反射の影響の検討	当センターでは、フリースペース法を使用してマイクロ波・ミリ波帯域での材料特性を測定している。この測定において測定試料外からの反射はできるだけ小さいことが望ましいが、当センターの装置は金属で構成されており反射も大きい。本研究ではこの反射が測定に与える影響の大きさを調査し、反射を抑えることで測定精度を向上させることを目的とする。	

	研究テーマ	概 要	担当課・係
7	IoT を活用した所内装置 監視システムの構築	測定に時間を要する試験については定期的に職員が試験室に行き動作確認を行っているが、異常により装置が停止した場合には早期発見が重要となる。今回、安価な Raspberry Pi をベースに、執務室から試験室の状況をリアルタイムに監視できるシステムの構築を行い、人的リソースの効率化及び異常時の早期発見を目標としたIoTの活用に関する検証を行う。	応用技術課 電気通信係
8	応力発光塗料を用いた 微細構造物への適用に ついて	前年度の研究において確立した応力発光塗料の評価方法を微細構造に適用し、評価できなかった応力状態を把握する。	中丹技術支援室
9	多孔質材料のにおい等 の揮発成分の保持能力 について	活性炭などの多孔質材料は消臭剤として使用されるなど、そのにおい成分の吸着性能が広く知られている。これらの材料を加温した際に揮発成分の保持能力にどのような違いがでるか、またどのような要素に起因するのかを検討する。	
10	種々の高分子材料の広 域分光分析とデータベ ース化に関する研究	高分子材料について代表的な要素(熱・紫外線・薬品・温水)による劣化操作を実施する。その上で、当センターが保有する各種分光分析機器を用いて透過スペクトルを取得し、より俯瞰的に種々の劣化による影響を議論するとともに、整理したデータについてはデータベース化して一般に公開する。	基盤技術課 材料評価係 化学分析係 企画連携課 デザイン情報係

# 重点技術課題

## 1 研究課題や研究結果の普及・活用についての考え方

- (1) 重点技術課題は令和元年度の商工労働観光部 重点目標及び令和元年12月に策定された「京都府総合計画」からキーワードを抽出して決定する。
- (2) 研究課題は次のことを踏まえたものとする。
  - ・企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題
  - ・依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発
- (3) 研究結果の普及・活用については次のことを考慮する。
  - ・現況調査では課題を把握・予見すること
  - ・技術の改善・効率化に役立てること
  - ・技術の探求や知見の蓄積を行うこと

## 2 重点技術課題の設定とセンターの対応力や得意分野（別表参照）

- (1) 令和元年度の商工労働観光部 重点目標及び令和元年12月に策定された「京都府総合計画」からのキーワード
    - 「スマートシティ」、「ビッグデータ」、「デジタルサイネージ」、「AI」、「IoT」、「食」、R・AR技術」、「NEO KOUGEI」、「ロボット」、「クラウドサービス」、「6次産業化」
    - \*以下「中小企業の特定制品のづくり基盤技術の高度化に関する指針」の技術分野
  - ア AI、IoT、ビッグデータ、デジタルサイネージ、VR・AR技術、クラウドサービス、スマートシティ
    - (ア) IoT・AI等の技術の高度化
      - 情報処理、測定計測
    - (イ) IoT・AI等を活用した自らの基盤技術の高度化
      - デザイン開発、情報処理、精密加工、製造環境、接合・実装、立体造形、表面処理、機械制御、複合・新機能材料、材料製造プロセス、バイオ、測定計測
  - イ ロボット
    - デザイン開発、情報処理、精密加工、接合・実装、立体造形、表面処理、機械制御
  - ウ 食
    - 製造環境、機械制御、バイオ、測定計測
  - エ NEO KOUGEI（新商品開発）
    - デザイン開発、立体造形、複合・新機能材料
- (2) 企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題
    - ア 素材開発に係る技術課題
    - イ 計測制御技術（ソフト開発、プログラミング）の課題
    - ウ 業界動向や府内企業のニーズを把握するための調査
    - エ 指導分野の技術課題
  - (3) 依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発
    - ア 機器利用の高度化、高効率化、迅速化
    - イ 設計評価技術の迅速化

## 重点技術課題の設定とセンターの対応力・得意分野

課題の出典	技術課題	技術分野	センターの対応力・得意分野							
			企画・情報	化学・環境	機械設計・加工	材料・機能評価	デザイン	表面・微細加工	食品・バイオ	電気・電子
(1)令和元年度の商工労働観光部 重点目標、京都府総合計画(キーワード)	IoT・AI 等	デザイン開発					○			
		情報処理	○							
		精密加工			○					
		製造環境		○	○				○	○
		接合・実装				○			○	
		立体造形			○					
		表面処理					○			
		機械制御			○				○	
		複合・新機能材料		○		○		○		
		材料製造プロセス				○				
		バイオ						○		
		測定計測		○	○	○		○	○	
	ロボット	デザイン開発					○			
		情報処理	○							
		精密加工			○					
		接合・実装				○			○	
		立体造形			○					
		表面処理					○			
		機械制御			○			○		
	食	製造環境		○	○				○	
		機械制御			○				○	
		バイオ							○	
		測定計測		○		○			○	
	NEO KOUGEI	デザイン開発					○			
		立体造形			○					
		複合・新機能材料		○		○		○		
(2)企業調査等で把握した産業動向や府内企業のニーズを踏まえた技術課題	素材開発に係る技術課題			○		○		○	○	
	計測制御技術(ソフト開発、プログラミング)									
	ロボット、Web、シミュレーション、画像		○		○		○		○	
	業界動向、企業ニーズの把握のための調査		○	○	○	○	○	○	○	
	製造業、伝統産業、小売業、農産品加工									
	指導分野の課題		○	○	○	○	○	○	○	
(3)依頼試験等の日常業務に係る課題で、効率化・高精度化に対応する技術手法の開発	機器利用の高度化、高効率化、迅速化			○				○	○	
	設計評価技術の迅速化				○					

\*重点技術課題は太枠内。○印は主な担当。

## 沿 革

昭和21年4月	下京区西七条名倉町に京都府立機械工業指導所が開設され、旧京都府立機械工養成所の全職員と全施設がこれに引き継がれた。
昭和25年8月	京都府立産業能率研究所の設立
昭和37年8月	産業能率研究所と機械工業指導所を統合し、京都府立中小企業指導所を設置（それぞれ経営指導部、技術指導部となる）
昭和41年6月	名称を京都府立中小企業総合指導所に変更
平成元年10月	京都リサーチパーク内に移転。名称を京都府中小企業総合センターに変更
平成13年4月	組織変更（経営・技術各部門を機能別に再編、けいはんな分室設置）
平成17年4月	組織変更（経営部門を(財)京都産業21に移管し、名称を京都府中小企業技術センターに変更）
平成19年4月	組織変更（北部産業技術支援センター・綾部に中丹技術支援室を設置）
平成20年4月	組織変更（部制を廃止し、4課2室に変更）
平成24年8月	京都府中小企業技術センター創立50周年記念事業開催
平成27年4月	けいはんな分室を「けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）」に移転
平成30年4月	中丹技術支援室を「北部産業創造センター」に移転

## 所在地及び施設等の概要

- ① 本 所  
所 在 地 京都府京都市下京区中堂寺南町134  
(七本松通五条下ル 京都リサーチパーク内)  
土 地 1,380㎡  
建 物 7,296㎡（延床面積）（平成元年8月竣工、平成13年12月増築）
  - ・ 本 館 6,175㎡（鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階（2階を除く））
  - ・ 研究交流棟 1,121㎡（鉄骨・鉄筋コンクリート造 2階建のうちの1階部分）設備・機器 約200機種（100万円以上の機器）
- ② 中丹技術支援室  
所 在 地 京都府綾部市青野町西馬場下33-1  
(北部産業創造センター内)  
建 物 1,472㎡（鉄骨造 2階建）  
設備・機器 約100機種
- ③ けいはんな分室  
所 在 地 京都府木津川市木津川台9丁目6／相楽郡精華町精華台7丁目5  
関西文化学術研究都市（京都府 精華・西木津地区）  
(けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）内)

**令和3年度事業計画書**

令和3年5月

京都府中小企業技術センター

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134  
(七本松通五条下ル)

TEL 075-315-2811

FAX 075-315-9497